

【 会 議 録 （ 概 要 ） 】

実施日時： 令和5年（2023年）12月25日(月) 14時30分～16時

会議名	令和5年度越谷市商工対策委員会 (12月25日開催)	実施場所	越谷市役所本庁舎4階 会議室
件名/議題	【令和5年度越谷市商工対策委員会（12月25日開催）】 1 開会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 諮問 5 議事 6 閉会（中島副会頭より）	会議資料： (<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)	
出席者等	出席委員 (順不同) 井橋吉一委員(会長)、中島美三郎委員(副会長)、江原武男委員(副会長)、大野聡史委員、中村靖委員、沓沢隆行委員、中内啓夫委員、納代信也委員、宮嶋佐知子委員、桃木利幸委員、山本佳子委員 欠席委員 小櫃義徳委員 事務局他 環境経済部長、経済振興課長、経済振興課職員7名 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 2名 傍聴人 なし		

●主な意見等

【令和5年度越谷市商工対策委員会（12月25日開催）】

(仮称) 越谷市観光まちづくり推進計画（素案）について

- 市として目指したい方向性を明確にするといいのではないか。
- 越谷らしさを表すテーマを考えることが重要ではないか。
- 越谷は宿場町があった歴史あるまちのため、関連させたテーマを考えたい。
- 観光と経済活性化を結びつける要素としては、素案の中に概ね盛り込まれていると思う。
- 周遊性を高めることも重要であるが、地域別や年代別の戦略も重要であり、その観点が計画にもあると良いと思う。

○議長

諮問事項について事務局より説明願う。

○事務局

資料（素案）について説明。

○議長

ただ今の説明について、何か意見質問等はあるか。

○委員A

魅力的なまちづくりを検討されていることは分かったが、市としてありたい姿は無いのか。市としてやりたいこと、市民への投げかけが足りないように感じた。

○事務局

観光は市だけの事業ではなく、関係者の視野が広い分野であるため、今回の計画策定においては様々な方のご意見をお聞きした。計画素案の理念にあるような水辺をテーマに、ストーリー・付加価値をつけて、そのうえで持続可能な社会を実現していきたい。素案にある 3 つの原則に基づく取組を行っていきたいと考えている。

また、市民が計画をよりどころとして、市民がまちづくりに参加できる仕組み作りについても検討していきたい。

○事務局

行政としては策定した計画に基づき予算付けをしていく。素案において不足する考え方があればご意見いただきたい。

○委員B

越谷といえば〇〇の確立という言葉が何度か出てくる。現在、大学で経済組織論を学ぶ中で、越谷への愛が強いことを自己認識し、越谷市が国民健康保険の発祥地であることを活かさないかと考えた。今回の計画策定には間に合わないかもしれないが、計画の中にもウェルビーイングや持続可能という言葉が出てくる。心も体も経済的にも社会的にも健康になってはいけないというのがウェルビーイングの概念。この健康というワードと水辺の要素を結びつけられると良いのではないか。他市と比べて高齢者が多いと仮定すると、健康というテーマは自然かもしれない。

○委員C

自身も越谷の代名詞を聞かれても答えられない。他地域では映画の撮影を行っているという話も聞くため、外部から観光に関連する方を呼ぶことも検討いただけると良いのではないか。

○委員D

アンケートや国・県の統計が計画の大部分を占めており、越谷独自のストーリー、内容が曖昧で抜けているように感じた。具体的にどのような取組をするのか明確化することが必要ではないか。

計画期間において、いつまでに何をするのか見える計画にする必要がある。越谷市として、市民に何をアピールしどのような取組を行いたいのか、市民に分かりやすく伝えていただきたい。

○委員E

施策の検討において、越谷市で活動している団体の声にどれだけ耳を傾けていただいているのか気になっている。

○議長

越谷市は元々宿場町があった歴史あるまちだが、現在はそのような歴史の要素が少なくなってしまう。一方で、各家庭には歴史が残っているはずであり、それを訴えかけるようなまちづくりが出来ないかと考えている。

○委員F

越谷市は宿場町としての歴史が深いまちだと認識している。一方で、社内でも越谷市の歴史について説明したが、宿場町である認識を持つ方が少なかった。宿場町としての歴史を刻んできたまちであるとともに、新たな要素として親水機能を備え、新旧をあわせもったまちである。まちとしての顔をどのように打ち出すのかは、自社としても継続して検討していきたい。

また、健康の要素は自社としても重要視したいと考えている。街並みの周遊ウォーキング、現在行っている元旦マラソンのような周遊イベントを日常的に実施出来ないか。また、高低差の無いことを活かし、回遊性を高めることは重要だと考えている。シェアサイクルのような取組は市として取り組んでいくのかお聞きしたい。

にぎわいを作る・にぎわいを繋ぐということをポイントに考えていきたい。

○事務局

シェアサイクルの事業者とは打合せを重ねている。事業者との協定に向けて、関連部署とも検討を進めている。

○委員B

数年前に当会議でサイクリングを推進すると話をされていたが、現在は進んでいるのか。

○事務局

市でサイクルカフェ事業を立ち上げ、観光協会に活動を引き継ぎ継続している。現在は、登録店舗が20数店舗となっている。プロモーションは引き続き必要だが、着々と数は増えている。

○委員G

計画の目的に基づいて考えると、市民が市の資源をまず勉強しなくてはならない、そして発信しなくてはいけない。市民が勉強する機会、発信する機会をどのように創造するか考えていただきたい。ネタはあると思うし、話が進めば展開していくと思う。

○委員H

社内に富士三十六景のポスターを貼った。富士山や水辺が描かれ、わかりやすい。来客の際にも、越谷というまちを説明しやすい。越谷といえば水辺、もしくは歴史を思い浮かべるような計画になれば良いのではないか。

○議長

古いものが沢山あるが、それをいかに掘り起こすのかが重要ではないか。

○委員D

越谷の資料館があると良い。

○委員I

地方の観光地に行くと城がありそれをベースに歴史がある。越谷にはそれが無い。広島から来た市民に話を聞いたところ、災害が少なく東京に近い素晴らしい場所だと思えるようになったと言っていた。そのような魅力の核をつくらなければいけない。

まちづくりは、若者、よそのもの、ばかものが集まらないとできないものだと思っている。この計画にもそのような要素が反映されると良い。

○委員A

かつての越谷の宿場の中心は大沢だった。しかし、大沢にはその面影は全くない。公園と碑が残っているのみである。古い地図をみると宿場町があり、古い屋号を持つ家が残っている。

○議長

古いもの、宿場町に関連するもの、家康に関連するものを活かしていくのがよいか。

○委員I

宿場町は、歴史に興味がある方には良いが、それだけでは弱いのではないか。経済循環を考えれば、まちなみが重要である。

○委員B

越谷は道路が狭いため、ウォーキングを推進しても安全性が低い。目先のことでなく、並行して環境の整備も必要である。

○委員J

観光と経済活性化を結びつけると、必要な要素として様々なものがあるが、今回の素案では観点が網羅されていた。一方で、全ての要素を入れることで何をやるのかがぼやけてしまっている。せっかくレイクタウンに来たなら中心街に誘導したいと考えがちだが、レイクタウンを目的とした来訪者は市内の歴史に関心があるわけではないため、別物として考えた方がよい。最終的に周遊性を高めることは良いと思うが、全体像とは別に、最初は地域別や年代別の戦略が必要だと考えており、計画においてそのような観点があると良いのではないか。

○委員F

宿場町やレイクタウン、南越谷等の地域毎に資源を深掘りして、観光を考えていくと良いということか。

○委員J

越谷について考えるとそうではないか。地域によって色が違うことが本市の特徴である。

○議長

旧日光街道周辺では歴史を感じられるようなまち、南越谷やレイクタウンで新しいまちをつくっていくのが良いか。

○委員 I

重点プロジェクトとして水辺とあるが、葛西用水で水を利用したスポーツをする、土手で応援するといったようなことができないか。

○事務局

農業用水の活用については検討させていただきたい。

○委員 G

南越谷は、市外からも来訪者が多いエリアで若者も多い。九州の方で、景観の制約をつくっている地域もあり、そのような取組があると景観が整備されて良いと思っている。ジェットスキーやカヌーを導入して水辺を活用できないか。市が持つコンテンツの良さを引き出すことは非常に重要だと思う。

下間久里の獅子舞は歴史由緒があり、400年も続くものと聞いている。諸外国の方も興味を示すものではないか。

○議長

少子高齢化が進む中で、持続可能なまちづくりは非常に重要な観点である。越谷には住んでみたくなるような要素が多くあり、それらを活かすような取組ができると良いのではないか。

その他、何か意見質問等はあるか。無ければ、本日の委員会はこれで閉会とする。